

なしそうに見えた」(37.4%)「警察に届けることはないと思った」(37.2%)  
などが多く、「挑発的な態度」はわずか6.7%しかありません。加害者は  
自分が訴えられないだろうと思っておとなしそうな相手を選んで襲って  
いるのです。被害者とは、傷ついているすべての人のことであり、合意のあ  
る被害などないのです。「挑発があった」とは、加害者の勝手な言い分  
であり、加害者が性欲を刺激されたとしても、犯罪に至る言い訳にはなりま  
せん。酒等を飲ませて暴行に及ぶ事件が多い事実からも、計画的な犯行で  
あることがわかります。



#### **誤解④：**

**嫌だったら声をあげて助  
けを求めるはず。必死に  
抵抗すれば逃げられる**

#### **事実：**

**あまりのショックで、  
→ 声を出せる人は少ない**

性犯罪の被害にあったとき被害者はどういう行動をとっているでしょう  
か。平成10年の調査では、「大声で助けを求めた」り(41.7%)「付近の  
民家や店に駆け込む」(6.4%)といったはっきりと助けを求める場合は半  
数にも満たず、「やめてくれと加害者に頼む」(51.5%)が一番多く、「何  
もできなかった」という人も25.5%います。

被害者は被害にあったときに、とっさに何が起きたか理解できません。  
驚愕のあまりボーっとしたショック症状になって、声も出せない、身体も  
金縛りにあったような状態になることもあります。また、被害にあった  
(あっている)ことを誰かに知られるのが恥ずかしいと思って声が上げら  
れないこともあります。恐怖のあまり抵抗することもできないという場合  
もあります。逃げるために必死の行動をとってみたいけれど、相手との体力  
差もあって、とてもかなわないとあきらめざるを得ないことも多いのです。